

Minami Kyushu University Syllabus							
シラバス年度	2021	開講キャンパス		都城キャンパス	開設学科		環境園芸学科
科目名称 [英語名称]	環境園芸実験実習Ⅰ [Practice in Environment and Horticulture, Part 1]			実務経験 教員担当		アクティブ ラーニング	○
科目コード	710002	授業形態	実習	単位数	2	配当学年	1年次
教員氏名	前田 隆昭/環境園芸学科各教員			学位授与の方針 との関連	DP1(1) DP2(1) DP3(1) DP3(2) D P3(3) DP3(4)		
授業概要	環境を考えた循環型社会に向けて、植物に係わる農学系の生産園芸(作物)保全、造園緑地、バイオ・育種、花・ガーデニング、自然環境の立場からフィールドセンターの実習場、学外の実習場、屋内の実験実習場を利用して、環境への負荷を軽減することが可能な技術について基礎的な実験実習を学びながら、応用への考察ができるようにします【知識・技能の育成】【コミュニケーション能力の育成】。						
関連する科目	環境園芸実験実習Ⅱ						
授業の進め方と方法	授業はオムニバス形式で行われます。1学年をA,B,C,Dの4班に分けて実習を行います。各専攻で実施する内容は以下に示しますが、具体的にいつ何を行うかの日程は別紙で示します。回ごとに、何を学ぶのかの概要、それを学ぶための方法の説明がなされます。概要を理解した後に、実習や実験として、実際に体験してもらいます【知識・技能の育成】。体験内容はレポートなどにまとめます。1回の授業構成は2コマです。以下の授業計画はA班を事例としたスケジュールです。また、本実習はグループワークや体験学習等を取り入れたアクティブラーニング形式で実施する【コミュニケーション能力の育成】。						
授業計画	(A班を事例としたスケジュールを示します。班によって異なります。) 第01回目: ガイダンス、レポート(共通) 環境園芸実験実習Ⅰの授業内容について概要を説明し、実習場所の施設見学を行う。 第02回目: 作物の播種、間引きおよび定植(園芸A) 圃場作物の播種方法について学ぶ。 第03回目: 身近な造園空間の視察研修(造・緑A) 都城島津邸では都城の歴史や薩摩様式の庭園を学び、早水公園または椎八重公園では公共緑地の特徴を学ぶ 第04回目: ガーデニング関連視察研修(花・ガA) ガーデン併設の販売も行う花生産農家を視察し、取り組みを知る。 第05回目: バイオ技術交配育種実験の基礎(バ・育A) 培養実験を行いながらバイオ技術の基礎を学ぶ。 第06回目: 花卉の播種と育苗(園芸B) 最適な環境条件を検討しながら、花卉を種子から繁殖し、さらにポット苗の生産を行う 第07回目: 造園機械入門(バックホー 走行・掘削・旋回)(造・緑B) 造園の地形調整で用いる小型車両系建設機械の操作方法の基礎を学ぶ。 第08回目: 寄せ植え作成及び花壇管理(花・ガB) 寄せ植えデザインを小グループ協働しながら作成を行うとともに、後期に作成する花壇を中心に管理作業を行う。 第09回目: バイオ技術の基礎(バ・育B) 植物組織からのDNA調製実験と調製したDNAの電気泳動法による分析実験を行います。 第10回目: 果樹の栽培管理(園芸C) 果樹類への施肥および収穫に関する管理作業を行います。 第11回目: エクステリア入門(造・緑C) 造園作品の作成(枯山水のミニガーデン)を通じて、造園の収益構造を学ぶ。 第12回目: 寄せ植え及び花壇管理・園芸福祉活動実習実習(花・ガC) 車椅子・アイマスクを用いたしょうがい疑似体験をしながら実習で作成した寄せ植えの管理作業を実施する。 第13回目: 無菌操作と培養の基礎(バ・育C) 植物組織培養の基礎技術の培地の作成および無菌操作を行います。 第14回目: 生き物生息地の観察～水生生物～、昆虫の分類と生態(自然A,B) 水辺ピオトープにおいて水生動物の採捕と観察を行います。また、昆虫を採集して観察や分類を行います。 第15回目: GAP認証農場の見学(園芸) 実圃場において適正な園芸生産に関する要点を学ぶ。						
授業の到達目標	1. 環境園芸実験実習の基本的な技術の習得と考え方を習得する。【専門分野のスキルの獲得】【実践力の育成】 2. 集団での作業を通じて意思疎通、協調性、自己表現能力を身につける。【コミュニケーション力の育成】						
授業時間外の学修	【予習】事前に専攻別に配布された講義日程をもとに内容を確認し、毎回30分程度予習をする。 【復習】実験実習中あるいは実習終了後に提出用レポートに目的、材料、方法、結果、考察およびまとめを図示も入れて記述しながら復習をかねて1時間程度学修する。						
課題に対するフィードバック	その回ごとに体験すべき技術や実験がある。指示に従って適切に実施できているか、受講生の実施状況を見ながら、その都度担当教員などから必要な指示がなされる。	評価方法		レポート点と講義途中の小テストなどで総合的に評価する。オムニバス形式なので、2回(2コマ)で7点満点評価する。			
テキスト	担当教員によりプリント等の配布あり						
参考書	担当教員により、別途紹介する。						
備考	指定した作業服、靴および白衣を着用する						